



楽々亭通信

第17号
令和4年1月1日号

発行:NPO法人没イチの会・京都

十二月の楽々亭第15回を

開催いたしました



『初夢』

本願寺派布教使

安堂芳雅

謹賀新年

本年も宜しくお願い致します。

初夢といえば「一富士、二鷹、三茄子」ですね。

調べてみると、これには徳川家康が、「富士山・鷹狩り・初物の茄子」を、ことのほか好んだからという説。富士は「不死」「無事」に、鷹は「高い」に、茄子は、事を「成す」につながる、という説などがあるそうです。

さらに、三のあと四、五、六と続きがあることを、初めて知りました。

「富士、鷹、茄子」も、てんでバラバラなラインナップですが、四番以降はさらにユニークで、「・・・、四扇、五煙草、六座頭」と続くのだそうです。

四は末広がりの「扇」、五は煙が高く上がってゆく「煙草」で、なるほどなあと思いましたが、

はて、「六座頭」とは？
「ロクザトウ」、六角形の砂糖菓子を思い浮かべたりしましたが、「座頭」は琵琶法師のことでした。

(勝新太郎は“市”という名前の琵琶法師だったんですね。
ついでにいうと、「座頭、市」を「ざと、おいち」とよんでました。ああ、恥ずかしい。)

さてその座頭が、なぜ初

夢スタメンの六番手に入っているかというところ、「座頭」は「琵琶法師」ですから、「毛がない」。

つまり、「怪我ない」という事らしいのです。言葉遊びもいいところですが、さらにいじやないです。

もう少し「夢」のお話を続けます。
どんな夢を見るかは選べませんが、良い夢を見るには、こんな方法があるそうです。

「宝船」の絵を枕の下に敷いて寝ると、良い初夢が見られると言うもので、江戸時代にはお正月早々から「宝船売り」の声が行き交ったそうです。(絵じやなくて、貯金通帳じや、ダメですかね?)

では、悪い夢を見てしまった時はどうすればよいのでしょうか?

その時は、夢を食べる伝説

ばく

の動物「獺」の名前を、三回となえるそうです。

「バクバクバク」。すると、悪い夢は獺が食べてくれるので、同じ夢はみないそうです。

寝た次の瞬間には朝になっっている私にとって、「宝船の絵」も「獺」も今一つピンとこないのですが、夢と絡めてこんなことを思っています。

「夢とは目が覚めるからこそ“夢”」

共に俳優で、歌手の宇崎竜童さんと、作詞家の阿木燿子さんは有名な仲良し夫妻ですが、お二人の朝の挨拶はとても変わっています。

おはようではなくて、「おめでどう。ありがどう」

「ありがどう。おめでどう」と言い合うのだそうです。

す。

「目が覚めて」よかったですね。「おめでどう」今日の一日、有ること難し。「ありがどう」ということでしょうか。

縁起の良い夢に舞い上がったたり、悪い夢に恐れ慄いたりしてしまいがちですが、また今朝も、目が覚めて「ああ、夢だったのか」と思える。それこそがめでたく、ありがたいことなんです。



松竹のプロデューサーとして

その9

最近悲しい出来事が多くなく、小生つくづくとあまり長生きするものではないと思ひ出しました。

瀬戸内寂聴氏が去った悲しみも少しは落ち着いた所に、今夜は私の大事な友であった中村吉右衛門の訃報の知らせが入りました。

私の親しくして頂いた方が次々とお亡くなりになって本当に淋しい限りです。

思い起こせば鬼平の原作者である池波正太郎氏より電話がはいり「櫻井ちゃん、鬼平犯科帳の原作を君が自由にしているから主役を吉右衛門にやらせてくれないかな」と電話が入りました。翌日TBSから電話が入り「鬼平を吉右衛門の兄の幸四郎でやらせてくれないか」と松竹の演劇部を通じて電話が入って来ました。

演劇部の役員としましては二人とも演劇部所属ですので、私もあまり強くは主張する事は出

来ず、しかも幸四郎も山田五十鈴も「大忠臣蔵」のテレビ東京で大成していますので、演劇部の役員も私には余り強く言えない様でした。

そしてまた同じ頃フジテレビより電話が小生の所に入っていました。吉右衛門で鬼平をなんとかしてうちでやらせて欲しい旨の連絡が入っていました。

鬼平以外に8時から10時のゴールデンタイムを松竹に渡しますからなんとか鬼平をやらせて欲しいとの事でしたので、私も直ちにOKを出しました。

演劇部には目を伏せてもらいました。

松竹では会長が演劇担当、社長が映画担当、私は映画の部員でしたので両首脳の部屋を行ったり来たりで最終的には「君に任せる」ということになりました。

フジテレビより両首脳にお礼の電話が入りやっと前に進むようになりました。

さて今度は吉右衛門との交渉です。ギャランティ、その他案件の話です。テレビでは以前團

十郎氏でテレビをやっていますので、大体の条件はわかりますが、映画は始めてですので見当がつきませんでした。

そしてマネージャーは話をし、て欲しいとの事が出てこられたマネージャーは奥様でした。元日本航空のCAで社交的で立派な方でした。

期間拘束の件、テレビのギャランティの件、映画のギャランティの件、困難なことが幾つもあり何度も吉右衛門宅を訪れました。その度に吉右衛門と仲良くなったり、また険悪な状態になったり、この様な状況の中でテレビも映画も撮影に入りました。

テレビの方のギャランティは納得されましたが、映画は絶対に譲られませんでした。遂に吉右衛門の言い値でOKを出しました。寅さんの倍でした。誰にも言わず私の腹の中におさめました。その代わり岩下志麻をはじめ、豪華な俳優が揃いました。収入が最高の数字を上げました。種々ありましたが、本当に腹

の割った友人になりました。

その彼がこんなに早く旅立っていくとは考えもしませんでした。

いてしてまた一人團十郎に続いて親友が去って行きました。

今は彼の冥福を祈るばかりです。

小生は悲しくて残念です。

櫻井洋三



楽々亭第15回 12月の予定

1月18日(火)

西京区役所洛西支所会議室

午前10時~12時

12月に開催した場所です。

表玄関口から入って下さい。

楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい想いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。